

戦後 80 年 平和や命の大切さについて考える夏休みに！

8月9日（土）

本日8月9日は長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典が行われました。長崎市では毎年原爆投下の8月9日に松山町平和公園の平和祈念像前において、原爆犠牲者の霊を慰め、あわせて世界の恒久平和を祈って長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典を挙行しています。式典は、原爆犠牲者のご遺族をはじめ、市民多数の参加のもとに行われ、この席上での長崎市長の平和宣言は、国連加盟の各国元首をはじめ、全国の地方公共団体などへ送るとともに、インターネットを通じ全世界に発信し、核兵器廃絶と世界恒久平和の確立を訴え続けています。また、8月6日に行われた広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式では、こども代表の小学生・関口千恵璃さんと佐々木駿さんが「平和への誓い」を読み上げました。

「 ～One voice.～ たとえ一つの声でも変化をもたらすことができるはず！ 」

いつかはおとずれる、被爆者のいない世界。同じ過ちを繰り返さないために、多くの人が事実を知る必要があります。原子爆弾が投下されたあの日のことを、思い浮かべたことはありますか。昭和20年（1945年）8月6日 午前8時15分。この広島に人類初の原子爆弾が投下され、一瞬にして当たり前の日常が消えました。誰なのか分からないくらい皮膚がただれた人々。涙とともに止まらない、絶望の声。一発の原子爆弾は、多くの命を奪い、人々の人生を変えたのです。

被爆から80年が経つ今、本当は辛くて、思い出したくない記憶を伝えてくださる被爆者の方々から、直接話を聞く機会は少なくなっています。どんなに時が流れても、あの悲劇を風化させず、記録として被爆者の声を次の世代へ語り継いでいく使命が、私たちにはあります。

世界では、今もどこかで戦争が起きています。大切な人を失い、生きることに絶望している人々がたくさんいます。その事実を自分のこととして考え、平和について関心をもつこと。多様性を認め、相手のことを理解しようとする。一人一人が相手の考えに寄り添い、思いやりの心で話し合うことができれば、傷つき、悲しい思いをする人がいなくなるはず。周りの人たちのために、ほんの少し行動することが、いずれ世界の平和につながるのではないのでしょうか。

One voice.

たとえ一つの声でも、学んだ事実思いを込めて伝えれば、変化をもたらすことができます。大人だけでなく、こどもである私たちも平和のために行動することができます。あの日の出来事を、ヒロシマの歴史を、二度と繰り返さないために、私たちが、被爆者の方々の思いを語り継ぎ、一人一人の声を紡ぎながら、平和を創り上げていきます。

終業式でも触れましたが、8月6日（広島に原爆が投下された日）、9日（同長崎）、12日（日航機墜落事故）、15日（終戦記念日）は平和と同時に、命の大切さについて考える10日間だと思います。

〈保護者・地域の皆さんへ〉明日8月10日（日）から8月16日（土）までは学校閉庁日とします。本校職員は出勤いたしません。何かとご不便をおかけしますが、ご理解ご協力のほどよろしくお願いします。

第2回青垣小中学校学校運営協議会開催 7月31日



特別養護老人ホーム「もくせい～夏まつり～」 氷上西高校と青垣中学校吹奏楽部 訪問8月9日

